

平成30年度 史料保存館 特別陳列
 ならまち歳時記 年間展示予定 4～9月

4月 「奈良奉行・川路聖謨と桜」

かわじとしあきら

展示期間：4月3日（火）～4月30日（日）

幕末の奈良奉行、川路聖謨が東大寺や興福寺に桜や楓の植樹を発案し、町の人々がそれに協力したことを記念して建てられた「植桜楓之碑」の拓本などを展示し、川路聖謨の植樹事業について紹介します。



植桜楓之碑

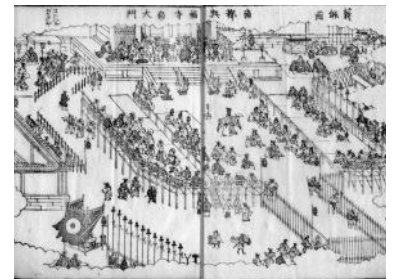
- ・主な展示史料
 「植桜楓之碑」拓本屏風
 『中院町永代帳』

5月 「薪能」

たきぎのう

展示期間：5月2日（火）～6月3日（日）

薪能は現在、毎年5月に2日間、興福寺と春日大社で行われる伝統行事です。その時期に合わせて、江戸時代の薪能について絵図や、地誌、舞台の配置図などで紹介します。



『改正絵入南都名所記』

- ・主な展示史料
 「薪能舞台配置図」
 『改正絵入南都名所記』

6月 「春日太々神楽」

かすがだいだいかぐら

展示期間：6月5日（火）～7月1日（日）

春日社では巫女が人々の求めに応じて、神楽を舞って祈禱することが古くから行われ、奈良町の人達もたびたび神楽を奉納しました。江戸時代には、梅本組春日太々神楽講といて、内侍原町が講元となり奈良町中で営まれた大規模な講があり、毎年6月に神楽を奉納し、当番の町では町内に設けた祭場に趣向を凝らした飾りものを作ってお参りする人々を迎えました。江戸時代の春日太々神楽講について、町の記録で紹介し

- ・主な展示史料 『内侍原町諸事記録控書』
 『萬大帳』 『井上町町中年代記』

7月 「地藏講」

展示期間：7月3日（火）～8月5日（日）

地藏菩薩は、庶民の身近な信仰の対象として親しまれていて、奈良町でも町内で地藏尊を祭る町が数多くあります。

7月23・24日など、地藏盆の季節に合わせて、町で営まれる地藏講の本尊として祭られてきた地藏菩薩の絵画、講のときに用いた祭具などを展示、紹介します。



紙本著色地藏菩薩像

- ・主な展示史料
 「紙本著色地藏菩薩像」

8月 「山上講」

展示期間：8月7日（火）～9月2日（日）

山上講は、霊山として名高い吉野大峰山への参詣を目的とした講です。江戸時代以降、奈良をはじめ各地に大峰講、山上講、行者講などと呼ばれる講が組織され、夏には先達連れられて大峰山へ参ることが今日も行われています。



山上講の祭壇

山上参りの季節にちなみ、江戸時代の奈良町の山上講で使われた用具や祭壇を紹介します。

- ・主な展示史料 瓦町旧蔵山上講用具
 瓦町旧蔵山上講祭壇（写真展示）

9月 「芭蕉の句と大和名所」

展示期間：9月4日（火）～9月30日（日）

芭蕉が奈良で詠んだ句には、重陽の節句にちなむ「菊の香や奈良には古き仏達」があります。ほかにも、再興途中の大仏殿を見て「初雪やいつ大仏の柱立」と詠み、猿沢池畔に泊して「ひいと啼くしり声かなし夜の鹿」と吟じました。また、「奈良七重七堂伽藍八重桜」なども有名です。芭蕉が残した多くの名句に関連する奈良の名所を江戸時代の名所絵図などで紹介します。



- ・主な展示史料
 『大和名所図会』 『改正絵入南都名所記』

10月 「鹿の角きり」

展示期間：10月2日（火）～10月13日（土）

春日大社や興福寺の境内、奈良公園で群れ遊ぶ鹿の姿は、奈良を代表する風景のひとつです。毎年10月に行われる鹿の角きり行事の時期にあわせ、絵図や角きりの絵はがきなどを展示します。



角きりの絵はがき

・主な展示史料

角きりの絵はがき 「南都神鹿角伐図」（写真）

11月 「正倉院開封の儀」

展示期間：10月16日（火）～11月11日（日）

11月は、毎年奈良の秋の恒例行事として正倉院展が開かれます。宝物の公開に先立って行われるのが、正倉院の扉を開ける開封の儀式です。開封の儀式は、宝物や文書の虫干し、点検、修理などのため正倉院の扉を開けるときに天皇の使いを迎えて行われます。江戸時代には慶長、元禄、天保と3回の修理がありました。今回の展示では、天保4年（1833）の修理の際の開封の儀式の様子を詳しく描いた貴重な絵図を紹介いたします。

・主な展示史料 「天保四年 正倉院御開封之図」

12月 「春日若宮おん祭」

展示期間：11月13日（火）～12月24日（月）

おん祭は春日大社の摂社若宮社の祭礼で、保延2年（1136）から続く大祭です。奈良町ではおん祭の主要な行事のひとつ、大宿所祭も行われます。奈良の冬の年中行事、おん祭について、江戸時代の祭礼図などで紹介します。



『春日大宮若宮御祭礼図』大宿所

・主な展示史料

『春日社若宮祭図解』
『春日大宮若宮御祭礼図』

1月 「奈良町の正月行事 春日講」

展示期間：12月26日（水）～1月27日（日）

奈良を代表する信仰行事である春日講（かすがこう・しゅんにちこう）は、奈良町や周辺の農村で行われてきました。講の日を決めて鹿曼荼羅図などをお祭りし、春日社へ詣でて神楽を奉納するものです。特に正月は町中そろって春日社へ初詣に行き、その後町内一同で祝宴を開くなど、ともに飲食して結束を深める大切な行事でした。今も正月の行事として行われる春日講について、町の記録などで紹介します。



春日鹿曼荼羅
（写真）

・主な展示史料 『諸祝儀控』

2月 「近世奈良の茶人 ごんだゆう ちょうあんどう 久保権太夫（長闇堂）」

展示期間：1月29日（火）～2月24日（日）

2月は「茶」を通して奈良の魅力を発信する「珠光茶会」が開かれるのにあわせ、近世奈良のわび茶人、久保権太夫（1571～1640）について紹介します。久保権太夫は長闇堂とも呼ばれ、小堀遠州などとも親交がありました。大正時代に奈良の茶人たちが、久保権太夫の遺徳をしのび、彼の草庵「長闇堂」を再建したときの関係資料を展示します。

・主な展示史料 「長闇堂再建関係資料」

3月 「お水取り」

展示期間：2月26日（火）～3月31日（日）

東大寺二月堂で3月1日～14日まで行われる修二会は、12日夜に若狭井から香水をくみとることから「お水取り」とも呼ばれます。この行事の季節にちなみ、お水取りを描いた絵図や祈禱札、奈良を訪れてお水取りを詠んだ芭蕉の句などを紹介します。



大和国奈良東大寺御法事略図

・主な展示史料

「大和国奈良東大寺御法事略図」「二月堂牛玉宝印」